

保護者の皆様

大阪府立交野支援学校
校長 井上 昌二

平成28年度 学校教育自己診断の結果について（報告）

このたびは学校教育自己診断の実施にあたり、保護者、児童生徒の皆様には多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

今回のアンケート結果を以下のようにまとめました。今後の学校教育に活かせるよう、ご報告させていただきます。

1. 回答率（配付実施日：教職員10/27～ 保護者11/2～ 児童生徒11/15～）

	教職員	保護者	児童・生徒
小学部	100%	59%	4人
中学部	100%	62%	3人
高等部	100%	31%	8人
計	100%	52%	*16人（学部不明1含む）

2. 児童生徒の結果

- ・自力で筆記したり、教員が聞き取り筆記したりするなど、回答方法は様々でした。
- ・10項目の質問に対して児童生徒 名からの提出があり、全般的に概ね良好な評価を得ました。

3. 保護者の結果

- ・『よくあてはまる』『あてはまる』の合計が80%以上の項目が16/24項目と、全体を通じて概ね良好な評価をいただくことができました。
- ・とくに学校生活そのものに関する質問は良好な結果でした。この結果に甘んずることなく、今後も児童生徒が学校に行くことを楽しみにできるような、保護者の方々が安心して送りだせるような学校にしていきたいと思えます。

	診 断 内 容	よ あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	わからない	未回答
1	子どもは、学校へ行くことを楽しみにしている。	70%	26%	0%	0%	3%	0%
		96%					
2	子どもは、授業を楽しく受けている。	53%	39%	3%	0%	5%	0%
		92%					
17	学校は、子どものことについて、保護者の悩みや相談に適切に応じている。	24%	58%	8%	0%	8%	2%
		82%					

- ・児童生徒が安心安全に学校生活を送り、自立と社会参加に向けたキャリア教育を推進するため、「連携」「引き継ぎ」がキーワードとなる内容については、昨年度に比べて肯定的な意見が増えたものの、肯定的な意見が約半数とまだまだ学校課題であるとの結果となりました。
- ・教職員の業務の見直しを行い、情報共有の時間の確保や医療的ケアのチェック体制の見直し、進級、進学、進路に際して児童生徒の情報の引き継ぎに活用できる「個別の教育支援計画」の見直し等、学校内および関係部署との連携について学校課題として取り組んできましたが、まだまだ大きな学校課題としてとらえています。引き続き改善すべく取り組んでいきます。

	診 断 内 容	よ あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	わからない	未回答
16	進級・進学に際して、子どもの情報の引き継ぎがなされている。	11%	39%	22%	4%	22%	2%
		50%					
19	「個別の教育支援計画」は、学校間、地域、福祉との連携のツールとして活用できている。	11%	43%	21%	2%	22%	1%
		54%					
24	学校は、子どもの自立と社会参加へ向けた、小学部から高等部までの一貫した、系統的・組織的な ※キャリア教育を推進している。	8%	38%	13%	7%	33%	1%
		46%					

※キャリア教育とは…社会の中での自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための教育。将来的な観点を取り入れ、現段階での取り組みや、学部間での連携を考える。

- ・また、少数意見でも学校運営に係わる項目に関しては、関係部署とも連携し今後も検討していく必要があると考えています。

4. 教職員の結果

- ・『教育活動に関する項目』が15問ありました。基本『よくあてはまる』『あてはまる』が半数を超えていました。
- ・今回は学校課題として次の3つの項目について、教職員間で意見発散を行い、その内容を元に今後に向けて検討しました。
学部間の連携や自立と社会参加に向けたキャリア教育を推進するため「キャリアプランニングマトリックス」の完成・活用や「自立活動」の指導内容の充実、児童生徒が安心安全な学校生活をおくることができるよう人権に配慮した教育活動等、今後改善に向けて取り組んでまいります。

	診 断 内 容	よ あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	わからない	未回答
2	児童生徒一人ひとりの興味関心・適性に応じて、キャリア教育・進路に関する指導を行っている。	8%	71%	9%	2%	7%	3%
		79%					
4	支援学校教員としての専門性を活かして、児童生徒のニーズに応じた自立活動を行っている。	11%	63%	14%	2%	7%	3%
		74%					
5	児童生徒を指導する際には、人権に配慮した言葉や態度で教育活動を行っている。	25%	59%	10%	0%	3%	3%
		84%					